

第 10 計;中国人は何故謙虚さがないのか？

ー人口の多い中国では謙虚は落伍者ー

この答えは、中国で乗り物にのれば、直ぐわかります。日本のドライバーは初めて中国で運転する場合、100%運転できないと言っても過言ではないくらい大変だと思います。左右から車が割り込んでくるし、信号のないところでも人が通行するし・・・、予約なしで帰省ラッシュのキップを買う時の割込み方は凄まじいものがあります。実に凄いです。

中国では謙虚さがあることは、すべてにおいて落伍者になるからであります。勿論、中国人にも「謙虚」の意味は分かっています。それは平常時であり、急ぐときは、例えば私がタクシーを止めても先に乗り込まれます。緊急時は順番無視なのであります。

一人で北京駅周辺の町の動きを観察していた時のことです。私は、孫をつれた乞食の祖母と孫らしきカップルが私に近づいて来てしつこく物乞いをされました。私は煩（わずらわし）いので孫に 100 元上げました。孫は「ありがとう」と言いましたが、祖母は私に「ありがとう」も言わずに、孫のお金を取りに行きました。孫は逃げました。私もタクシーに乗ってすぐその場を離れたという思い出があり

ます。

子供へのプレゼントは子供のものであるはずであり、親のものという考え方は基本的に日本人にはありません。正月に、子供のお爺さん、お婆さんからもらうお年玉を、母親が使用することは、滅多にないのであります。子供はお母さん銀行に預け、親は其の儘、郵便局に貯金することはあったとしても・・・。

しかし、子供のお金は私の金という中国人の母親を見かけるのであります。母親の言い分として、教育費を私が支払っているのだから私のお金と言いたい気持ちは解らないでもありませんが、プレゼントをした人が子供から「ありがとう」の感謝の言葉が受け取れないのは如何なものかと感じます。これは文化・価値観の違いではなく、育ちの問題です。何故なら、中国人の母親は子供（将来母親）にそういう躰（しつけ）をしてきたからであります。

現代中国の超高層部を除き一般の漢民族には“単位”という地域単位の“相互扶助”、所謂毛沢東時代の良い価値観は消滅したのか？と思うことがあります。仲間の誰かが経済的に苦しければ、“相互扶助 助け合う”をする。“相互扶助”がない現代中国は改革開放の負の遺産であると思います。

私は現代中国には成功者が感謝の気持ちで“奉仕する 恵まれな
い人に手を差し伸べる”という概念がないと感じるのであります。

1949年以降、中国では土地は国家のもので土地所有権は限りなく
所有権に近いが定期借地権です。不動産業者の店頭での取引相場も
ありますが、しかし中国国家土地管理局で厳重に管理されています。
中国国家土地管理局は日本のように地方政府の管轄ではありません。
そして中国国家土地管理局は軍隊のような権限があります。「軍隊・
警察」を男性とすると、「土地管理局」は女性です。まるで「夫婦」
のような密接な関係と思えばよろしいです。日本でいえば法務局の
「不動産登記部」が権限付で独立しているようなものです。

日本人は日本商工会議所を通じて中国対外経済貿易委員会と交流
していますが、中国でビジネス展開をする場合、中国国家土地管理
局にも根回しする必要があるのです。

前述しましたが、現在中国経済は三か月が一年のようなスピード
で経済発展しています。何故なら中国人でも、突然土地管理局から
“立ち退き”を決定されるケースがあるのですから……。極端な
話ですが、田舎で経済発展の為工場団地を作るとしますと、住民の
意思に関係なく国と建設会社が先に取引して、建設会社が立ち退き

交渉をし整地してまでしまいます。そのスピードが三か月です。住民に立ち退き説得が不調の場合当然暴動が発生しますが当局に取り押さえられます。中国では田舎でも経済発展が国策なのであります。



中国土地管理局の権限の強さの例示を披露いたします。私は今年4月心臓の手術をした知人を見舞いに中国内陸部に行きました。その時、まるで中国の有名な“陳好 チェンハオ”のような“地局 中国土地管理局)”で従妹の29歳の女性に会いました。彼女が「日本人男性と結婚したいので私に紹介して欲しいと」言ったので、私が「あなたが（美人なので）日本語を覚えれば紹介してあげる」と返すと、彼女は「私の好みの日本人の若い男性が中国語を覚えれば、私は海南島にマンションを持たしてあげる。ついでに先生の奥さんの分も」と言いました。彼女の父は海南島の土地管理局局長でありました。日本人の中国ビジネスに於ける必要条件は中国語をマスターすることだと確信しております。また、彩色兼備の中国女性は日本語を話せません。彼女とは昼食と夕食を二回しました。昼食の時は公務員

なので男性のようであり、夕食のときは女性でした。



彼女に代表されるような中国人の女性は昼食の時の態度は一見女侠（女侠客 強きを挫き、弱きを助ける）で化粧もなく男性のようで謙虚さがありませんが、夕食の時、化粧をして服装まで変えてきました。非常に謙虚で意外に涙もろい事と金銭に淡泊であることも確認できました。従姉の知人がこっそりと私にいいました。「彼女の願いは中国人の男性に一度裏切られたので、優しい日本人と交際したい。」と言いました。

中国では監督官庁への届け出を最低8監督官庁にしなければなりません。中国「対外経済貿易委員会」には8監督官庁への命令権限はなく紹介だけです、私には“中国国営企画会社”というイメージです。日本で言えば“電通・博報堂・・・”の広告代理店と同じような企画会社と思っています。

嘗て、日本の企業が中国企業と合弁を解消しようとする、いきなり税務署から1500万円の税金を支払えと言われて、悩んだすえ、

ある社長が相談に来たことがあります。そして私の中国人脈で現地の警察署長から税務署長に 500 万円支払いをすることで解決したことがあります。日本からの電話一本での解決処置であったこともあり、昼食はご馳走になりましたが、私は報酬を請求していませんし元々受け取る気持ちもありませんでした。

善悪は別として、中国はいかにコネ社会であるかが解かってもらえたと思います。それと中国人の強気のツッパリ女性は以外にも謙虚さがあることを。

話を日本に戻すと、最近の日本の週刊誌のブラックユーモアは「カンサン カンサン あなたは、空き缶ですか、スッカラカンですか、菅忘長官“戦艦大和”はいつ沈んだのですか？」「カンサン カンサンあなたはいつから言い訳ばかりする狡（ずる）カンになったのですか？」と辛らつです。しかし、武士道には中国道教と江戸時代の大衆文化があるのをご理解していただけますか？総理！総理大臣に愛国心が感じられません。

“胆力”と“海外に人脈なき人は”少なくとも「総理大臣・官房長官・外務大臣」になるべきないという見解もあるようです。私も“身分相応に生きるも武士道精神”であるという意見であります。

話がとびますが、最近退職した公立学校の元教師の友人と話をする機会が増えました。友人の話をきけば聞くほど、現在の日本国政府の政治家と公立学校の教師には「愛国心」がなさ過ぎると感じました。確かに、教師より学歴の高い父兄がおり、時に苛められるかも知れないがそういう父兄に対しては、教師の魂である「教育家」としての武士道で対処すべきです。普通大学で単位をとったら簡単に教師になれるのはおかしい、師範大学をもっと充実すべきと思います。嘗て中国の師範大学に行った事があります。丁度学期末テストのときでした。生徒たちは校庭で一生懸命本を読んで最後のチェックをしておりました。



現在日本企業の就職担当者が公立高校の学生が就職の面接試験で「貴方の尊敬する人はだれですか？」の質問すら出来ない学校教育と企業に対する政府の指導的コンプライアンス（法令遵守）は“言語道断”であると思います。日本企業の就職担当者も卑屈になりすぎています。尊敬する人なくして人生をどうして生き抜くのか？

民間から優秀な人材が校長先生になってもすぐあきらめて辞めるようです。日本の教職員会議の現場では校長がまるで中国の文化大革命時代の“紅衛兵”のような仕打ちをうけているようです。校長も謙虚というより卑屈になっています。ハンコを押す事務員で教頭がどぶ掃除をして用務員になっているようです。

私が校長なら文句をいう教師には、一人ずつ「学力テストの決闘」をし、負けた教師には一か月間中国の学校を紹介してあげますから研修に行ってください。その間私が学生にみずから教えます。中国の教育は物凄い能力主義教育です。親も学生も必死です。

また「月曜日職員室での話題は競馬の話ばかり」とも聞きました。
またこのような教師には私が阪神競馬場の指定席でどちらが勝つかの博打をしてもよろしい。私は負ける気がしない。私は大学院の時一生懸命競馬と闘ったからです。

どう考えても、公立学校の校長に教師に対する「注意権・人事権」すらないのは可笑しすぎる。検察の取り調べも「透視化」が議論される時代です。教職員会議も「透視化」すべきと思います。私立学校はそうではないが公立学校は組織としての秩序が全くないようです。そういえば確定申告会場に退職した元教師が来ます。学歴の低

い八百屋のおばさんより、申告書の記載ミスが多い実情を日本国民が知らないのではないのでしょうか。

また、公立学校の教師の給料の大半は日本国民の税金です！税金は年寄りも支払っているのです。生徒の父兄以外の善良なる日本国民が公立学校の教師の給料を負担しているのです。国民から教育を委託されているのです。教師個人が世間に賛同されて政治家になるのはよろしいが、教師が特権階級の地位保全の為に政治家を志向して組合を作るのはもっての外です。教師は英語でいえば“COLLING”です。「聖職」です。公立学校の参観日は父兄だけでなく、祖父母も参加すべき時代になったと思います。また日曜日競馬場などへ行かずに自主的に「寺子屋」を自宅で開講したらどうですか。私の小学校の恩師は「寺子屋」を自宅で開講する人でした。後に岸和田市の教育長になりました。中国人の父兄は教師に対し「中元・歳暮」を持っていき子供を「落伍者」にしまいと必死で活動しています。

日本式の「控えめ」を美德とする謙虚と中国の謙虚は違います。中国人は一見謙虚さが無い人にも謙虚さがあります。ただ落伍者になる不安が発生した時謙虚さがなくなるのです。人が多すぎるのです。大陸文化です。2010/10/16 2010/11/20